

大阪市営地下鉄中央線は長らく「大阪港」が終点だった。大阪港から海底トンネルで南港コスモポリス駅まで地下鉄が延びたのは、1997年。当初、大阪港はコスモポリス、つまり海底トンネル部分だけ、OTSという別会社だったので、利用者は別料金を払わねばならなかった。

この地にWTC大阪ワールドトレードセンター、ATCアジア

太平洋トレードセンターが建てられたのが1995年。バブリーな発想で超豪華な建物を建てたはいいが、梅田、難波の繁華街からかなり遠い立地条件、やがて閉古鳥が鳴き、WTC、ATCは大阪市の財政を圧迫し、民間会社が入居してくれないため、WTCに大阪市の部局が入居。WTCは今や大阪市の「第2市役所」と言われている。

そのコスモポリス駅から歩いて数分、なんと別の海底トンネル工事が粛々と進行中だ。

人住まない島へ地下鉄延伸 血税1000億 海の底

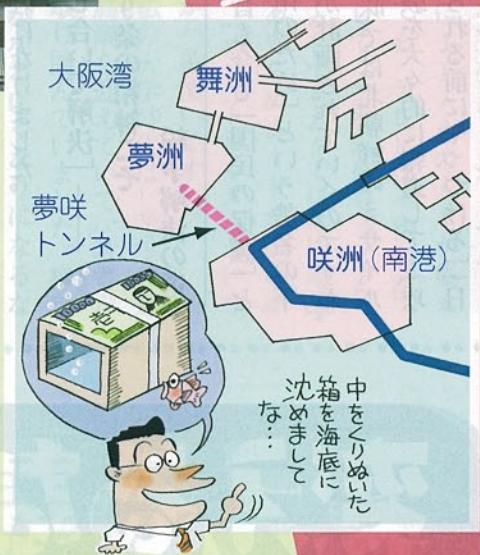


大阪湾の海底20mを歩く。ここに地下鉄を通すというのだ

「夢いっぱい海底トンネル」というどでかい看板。陸上トンネル部650メートル、沈埋(ちんまい)トンネル部800メートルという説明と共に完成イメージ図。

担当者の説明。「海底を掘るよりもアプロロ一チ部分が短くなるので、安上がりなんです」と胸を張る。安上がりって、あんた。トンネル自体がムダやがな！このドロガメ！とツツコミを入れたいのをくっつと我慢して工事用エレベーターに乗り、海底へ。

もったいない!



対岸は人が住んでいない埋め立て中の夢洲(ゆめしま)。南港のことを咲洲(さきしま)とも呼ぶので、このトンネルは「夢咲(ゆめさき)トンネル」と呼ばれる予定。い

「夢いっぱい海底トンネル」というどでかい看板。陸上トンネル部650メートル、沈埋(ちんまい)トンネル部800メートルという説明と共に完成イメージ図。

箱の内部を3つに区切り、両サイドは道路、中央が地下鉄。総工費はトンネルだけで1000億円。頭の中でチャリンという音と共に、「それって税金やん！」。「咲洲から夢洲、そして夢洲から舞洲(まいしま)とつないで、最後に舞洲から北港のユニバーサルスタジオまでつなげる計画です。そうすれば大阪湾を一周し、利用



納税者にとっては「悪夢いっぱい」のトンネルだ

価値も高まるかと…大阪市の港局担当者の説明を聞きながら、高まるかい！夢は舞わんし、咲かんわ！このドロガメ！とマジで切れそうになった。

「3大バカ事業」…自民党太田誠一議員みずから、関空と瀬戸内海に架かる3本の橋、東京アクアラインを、無駄遣いの典型として名指したが、この北港テクノポ

ート線はそれに匹敵するものではないか。

なんでこんな馬鹿げたことが…。答えは大阪オリピックだ。わずか6票しか入らずに北京に大差で敗れた08年オリピック。大阪市のコンセプトは「海にオリピックを浮かべたい」だった。オリピックに落選しても、工事だけは粛々と進む…。先の統一地方選挙では、

ほとんどの首長候補が「税金の無駄遣いをやめる」「財政建て直し」を公約した。その言やよし。要は実行するかどうか。いったん決まった事業でも時代に合わなくなれば中止する勇気があるかどうか。

線のJR岸辺駅までの延長を言う。その事業に500億円。今里筋線の乗客は、当初見込みの3分の1。その地下鉄を延伸させようというのだ。工事が着工されてからでは遅い。バブリーな発想から抜け出し、税金のムダ遣いをやめ、暮らしや福祉、教育に回すべきだと思っただが…。

吹田でも地下鉄延伸の動き、着工前にストップを



「千里タイムス」

勝手に吹田遺産 その4

1960年代の初め、二つのメディアが吹田に現れた。一つは1961年、千里丘陵の広大な土地を取得し、専用道路と撮影用の野外スタジオ、社屋の前にはグラウンドを完備して放送を始めた毎日放送である。「社屋の裏には日本初の高速道路が開通し、70年には万国博が開かれる。千里丘陵のこの地は発展まちがいなし」と当時の高橋信三社長が言ったとか。

それから47年、毎日放送はテレビ時代の波に乗っての高収益。ミリカプールをつくり、ゴルフ練習場を経営し、温泉まで堀りおこしたが、「もうこのへんでよからう」と、13ヘクタールの広大な土地を、それこそ買った時のうん十倍で売り飛ばし、大阪に帰ってしまった。毎日放送は吹田に何を残してくれたのだから、放送文化館くらいは残すかなと思ったが、それも残さなかつた。方や「千里タイムス」は細々とほんとは細々と、しかしながら、行政への批判の目はするどく、多くのファンを得ている。吹田の地を出て行って困るのは毎日放送ではなく、千里タイムスなのである。だからして、勝手に吹田遺産に登録するのである。

画・文 高宮信一